大塚だより

大田区立調布大塚小学校
校長　玉野　麻衣

SDGs 未来都市 大田区

「深い学び」の実現と「確かな知識」の習得

校長　玉野　麻衣

本校のホームページでは、こどもたちの「ことば」を紹介しています。始業式や終業式など儀式的行事での代表児童のことばや、代表委員会が全校児童向けに説明したことばなどからは、毎日の経験から様々なことに思いを寄せて、考えていることがよく分かります。的確な表現を見付けて発信しているこどもたちの姿にいつも感心しています。不定期の掲載となりますが、ぜひ、こどもたちの姿を思い浮かべながら読んでみてください。

さて、先日、「次期学習指導要領に向けた審議まとめ」（中央教育審議会教育課程部会）が示されました。これは、こどもたちが「激しい変化が止まることのない時代の中で、学校教育を受け、その後の人生を生き抜いていくことになる」という想定のもとで重ねた審議をまとめたものです。そこで示されているのが、「深い学び」の実現と「確かな知識」の習得です。ここで少し紹介します。

> 知識を意味理解や外化を伴う形で効果的に身に付け、知識と知識を繋げて頭の中で構造化したり、共通点や原理原則を見いだして一般化したりする過程で好奇心や問題意識を育み、社会や世界を解像度高く理解し、様々な現実の課題の解決に資する形で磨き上げていくこと、すなわち「確かな知識」として習得し、思考・判断・表現等に活用したり探究的な学びに繋げたりしていくことはこれまで以上に必要になる。換言すれば、「確かな知識」とは、こうした過程による認知的な努力を通じて身体化（記号接地）された知識でもある。

これは、「AI時代に人間が知識をもつ意義を改めて整理する」という文脈で示されており、「意味理解を伴わない丸暗記や、定型的な知識の当てはめ、知識の量だけを過度に競うような評価の在り方等の価値が一層低下した」と捉えています。本校でも、認知心理学の知見を生かした授業デザインによる授業改善をすすめているところですが、ここでいう「認知的な努力」への解像度を上げることによる深い学びの実現を目指している、ともいえます。12月には、組織的な取組の成果を研究発表会として公開します。当日は、小黒教育長をはじめ教育委員会の方々や、大田区内外の先生方、大学の研究者の方々など、大変多くの方にご参加いただく予定です。主体的に学びに向かう普段からのこどもたちの姿を、多くの方に見ていただきたいと思っています。また、当日は、保護者の皆様にもお手伝いいただきます。ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

１１月の生活目標
「友達を大切にしよう」

○11 月はふれあい月間です。相手のことを思い、言葉遣いや振る舞いを見直します。悩みや不安に感じていることは、先生や家族など、身近な大人に相談することも繰り返し指導しています。

１１月の保健目標
「姿勢を正しくしましょう」

○寒くなってくると姿勢が丸まりがちです。姿勢が崩れると、集中力低下や消化不良、自律神経の乱れ等の体調不良を引き起こす原因になります。ご家庭でも食事や勉強の際に背筋が伸びているか、ぜひ意識して声をかけ合ってみてください。

３年生「元気・笑顔・感謝！」

３年担任

３年生は、「元気・笑顔・感謝！」を学年目標に掲げ、自分も周りの友達も元気に、笑顔で過ごせるように互いを思いやること、小さなことでも感謝の気持ちをもち、それを伝え合うことを目指しています。日々の学校生活では、困っている友達にすすんで手を差し伸べたり、周囲の状況を見て自分にできることを考えて行動したりする姿が増えてきました。自分のことだけでなく、周りの人の気持ちを考えて行動する姿に、成長が感じられます。

学習面でも、様々な経験を通して成長しています。社会科のスーパーマーケット見学では、礼儀正しく見学し、お店の方々へ自分からすすんで感謝の気持ちを伝える姿が見られました。また、「裁量的な時間（みんなの時間）」では、これまでに学んだことを２年生に伝える活動に取り組みました。どうすれば聞き手が楽しめるかを考え、クイズを取り入れるなど、伝え方を工夫する姿が見られました。さらに、スライドを見て話すのではなく、聞き手に目を向けて話すことを意識するなど、発表する態度にも成長が感じられました。これからも「元気・笑顔・感謝！」を合言葉に、一人一人が自分のよさを発揮し、仲間とともに成長していけるよう支援していきます。

「導く」６年生

６年担任

６年生の学年目標は「導く」をキーワードにしています。最高学年として、さまざまな場面で自分の役割を果たし、周りから信頼される存在を目指しています。毎月実施のたてわり班活動では、下級生に自分から声をかけ、みんなが楽しく活動できるように進め方を工夫する姿が見られます。

先日のとうぶ移動教室では、一日の終わりに班ごとに活動を振り返り、よかったことや改善したいことを話し合いました。その内容を班長会議で共有し、翌日の学年全体の目標へとつなげました。教員から示された目標に取り組むだけでなく、自分たちでよりよい一日をつくろうとする姿に、成長が感じられました。

学習面でも、協働しながら問題解決する力を発揮しています。「おおたの未来づくり」では、気候変動という国際課題について、各国の立場から解決策を考える模擬国際会議に取り組んでいます。意見が異なる中、すぐに結論を出すのではなく、互いの主張やその背景を理解しようと議論を重ねています。

自分の考えをもち、仲間と協力し、よりよい方法を探りながら前に進む。こうした一つ一つの経験を積み重ねる６年生。様々な場面で周りを支え、仲間とともによりよいものをつくり出す姿が、学校全体を導く力になっています。

算数少人数担当より

算数専科

算数科では、児童の基礎的・基本的な学力の定着を図るため、習熟度別指導、週１回の学習支援員による授業中の支援、年６回の放課後算数補習教室を行っています。

３～６年生の習熟度別指導の授業は、各単元の初めに、既習事項が身に付いているかを確認するレディネステストを実施し、その結果に基づいて、児童が自分に合ったコース（バリバリコース・ゆっくりコース・じっくりコース）を選びます。どのコースも、授業で学んだことを説明する活動を取り入れ、自分の理解度を確かめたり、学んだことへの理解を深めたりしています。

放課後算数補習教室は、３～６年生を対象に実施しています。児童自身が授業で理解や習熟が不十分だと思う箇所を中心に、学習支援員が学習用タブレットによる指導を行っています。該当する児童には担任からお便りを渡します。次回は 12 月９日（水）です。ご高配のほどよろしくお願いします。